

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	学年	1 学年
学科	全学科	コース		教科書	新高等保健体育（大修館書店）		
副教材	「新保健体育 ノート」（大修館書店）						
学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身につける。						

		学習内容	学習活動・学習のねらい	評価の観点			備考
				知技	思考 判断 表	主体	
1 学期	4月	第1章 現代社会と健康					
		1 日本における健康課題の変遷	・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることについて理解している。		◎	○	
	5月	2 健康の考え方と成り立ち			◎	○	
		3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり		◎		○	
	6月	4 健康に関する意思決定・行動選択			◎	○	
		5 現代における感染症の問題	・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。	◎		○	
	7月	6 感染症の予防		◎		○	
		7 性感染症・エイズとその予防		◎		○	
2 学期	8月	8 生活習慣病の予防と回復	・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。		◎	○	
	9月	9 身体活動・運動と健康		◎	○		
		10 食事と健康		◎	○		
	10月	11 休養・睡眠と健康		◎	○		
		12 がんの予防と回復	・喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。	◎	○		
	11月	13 喫煙と健康		◎	○		
		14 飲酒と健康		◎	○		
	12月	15 薬物乱用と健康	・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。	◎	○		
		16 精神疾患の特徴		◎	○		
3 学期	1月	第2章 安全な社会生活	・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。	◎		○	
		1 事故の現状と発生要因		◎		○	
	2月	2 交通事故防止の取り組み		◎		○	
		3 安全な社会の形成	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には、正しい手順や方法があること、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを学ぶとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付ける。	◎		○	
	3月	4 応急手当の意義と救急医療体制			◎	○	
		5 心肺蘇生法			◎	○	
		6 日常的な応急手当			◎	○	

※ 評価の観点欄は、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。

評価方法	・定期考査に加え、課題やノート提出、小テストの成績などを総合的に評価する。 ・平常の取組（授業態度、意欲等）についても評価する。
------	---